

2024/11/25 05:00

スクラップに追加



消防隊員らは、被災者を車両から救出する訓練を行った

マグニチュード（M）9・0規模の南海トラフ地震を想定した県など主催の防災訓練が24日、身延町で行われた。町職員や警察、消防、地域住民ら約1000人が参加し、最大震度7の揺れに襲われたとの想定で、被害状況の確認や救助訓練などを行った。



大型ドローンが救援物資に見立てたドラム缶を運ぶ訓練を行った（写真はいずれも24日、身延町で）

身延町では集落の孤立が懸念されるため、大型ドローンで救援物資を届ける想定の実験を行った。ドローンがドラム缶三つ（計40キロ）をワイヤでつるして3分間、会場内を飛行した。

電力供給が途絶したことを想定した訓練もあった。燃料電池自動車から電力供給を受けてテレビを稼働させ、ドローンなどが上空から撮影した映像で被災状況を把握した。がれきを撤去し、倒壊家屋や車両から被災者を救出する訓練なども行った。

県が昨年5月に発表した被害想定では、南海トラフ地震が起きた場合、6万棟の建物が全壊し、死者数は3000人以上に上るといふ。今年8月には宮崎県で最大震度6弱の地震が観測され、気象庁が初めて同地震の「臨時情報（巨大地震注意）」を発表している。